

大学生13万人が就職できない!

学部間の内定率格差

大学4年生の就活が終わらない。なかでも文学部の落ち込みは激しい。苦戦している就活生の頭に、ふとよぎることがある。入ったらヤバイと称される企業に入るべきか、就職浪人か。

編集部 大波 綾

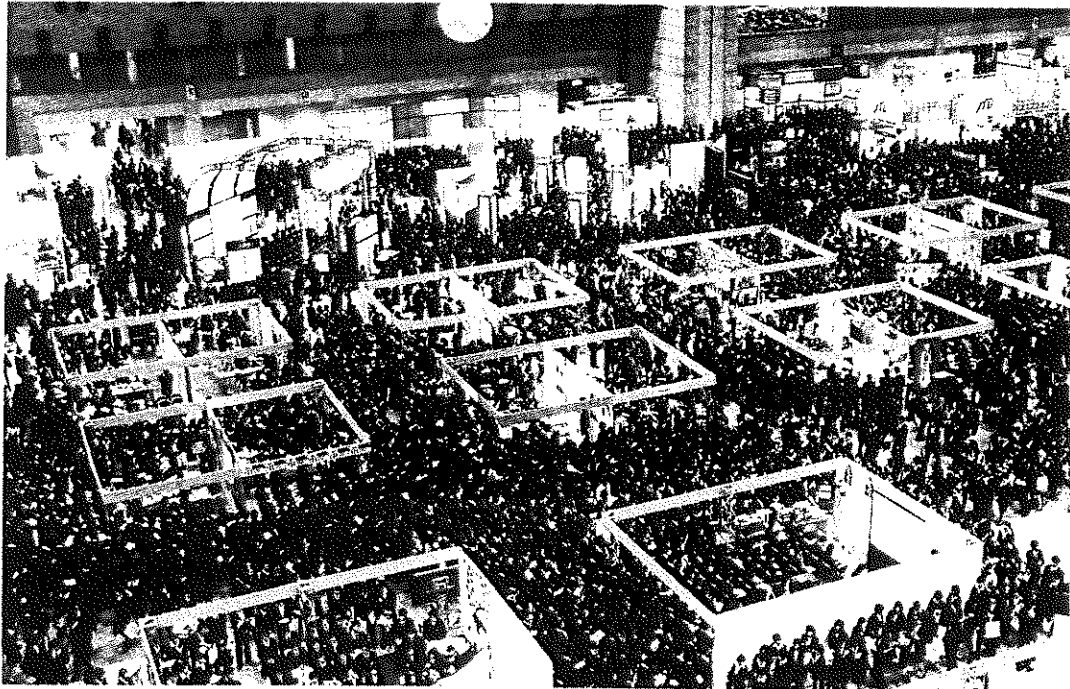
学生数の多い都内の大学で3・4年生を対象とした授業を持つ非常勤講師は、今期、異変を肌で感じた。授業に出席している学生の数が、一向に減らなかつたのだ。

400人は入る大教室で、例年ならば就活が始まるとポツポツと空席が目立ってくるのだが、今期は授業が始まってから一貫してびっしりと席が埋まっていた。出席率もリポート提出率も97%。とにかくまじめなのだという。リクルートスーツの学生もいるが、秋から就活を始めた3年生か、いままも内定が出ない4年生か、わからない。

「ここまでがんばってきたのに、はしごを外されたという思い、就職難への怒りが伝わってきますね。いまの学生を見てみると、さすがにかわいそうな気持ちになります」

と、この非常勤講師は話す。

厚生労働省と文部科学省の1月の発表によると、2010年



すでに始まった3年生向けの就活イベントには、リクルートスーツの人、人、人。就職浪人を決めた4年生も多く交じっている

3月に卒業する予定の大学生の就職内定率は12月1日現在で73・1%。調査が始まった1996年以降、最低だった。

就職情報サービス「ディスコ」が文部科学省の学校基本調査などからまとめた推計によれば、10年卒は進学も就職もできずに卒業する大学生が6年ぶりに10万人を超える見通しだ。同社によれば、フリーターも過去最多の3万人程度にのぼり、就職できない大学生が前年比6割増の約13万人に達する。大学卒業予定者の4人に1人は就職できない計算だ。

ここきて、10年卒の内定状況は就職氷河期と同じ、あるいはそれ以上に悲惨という予測が出てきている。

35ポイント減の文学部

教育関連情報を提供している

「大学通信」情報調査・編集部 安田賢治さんも、今年、異変を感じ取っている一人だ。

「東大3年生の動きが早いんです。例年ならば、10月になって3年生の就活が始まって東大生はゆったり構えています。今年逆。早めに手堅い大手から内定がほしいと、精神的に活動していて、焦っているようにさえ感じます。東大を出たのに内定が出ないなんてプライドが許さないのでしょ」

何がそうさせるのか。やはり現4年生の就職内定率を突きつけられているからだろう。

大学通信が全国の大学約600校に調査をしたところ、昨年11月末時点で回答があった244校で、卒業見込み者数から大学院進学予定者数を引いたうちの就職内定率は50・6%だった。中間発表とはいえ、前年の就職率からは30・2ポイントも下回った(11ページ右の表)。

10年卒予定者の内定率と09年卒の就職率との比較を学部系統別で見ると、国家試験の結果が出る前でも「看護」がもっとも高い。次いで「生命」「水産・海洋」が続くのは、不況に強いとされ、人気も高い食品業界との兼ね合いではないかと、大学通信の安田さんは見る。

反対に、卒業見込み者数が多い学部系統のうち、「文・人文」が34・9ポイント減、「教育」

